

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～日本を訪れる人々が求めているもの・・・～

1年生はオリ合宿へ、2・3年生は京都に遠足に行きます。京都には多くの外国の方々観光に来られていると思います。

さて、「インバウンド」「オーバーツーリズム」などの新しい言葉がニュースで飛び交いましたが・・・日本を訪れる人々が求めているものについて、別の観点・視点で、日本の伝統文化や歴史、精神性に鋭い研究・評論活動をされているジェイソン・モーガン（麗澤大学教授）さんが、次のように述べられています。では・・・どうぞ

・・・事実、最近、特に欧米からの観光客が日本にたくさんきていてはいませんか。

確かに、ブランドを買いに来ている人もいますが、地方の神社やお寺を見て回っている人も多
いんですよ。

彼らは、「自分の国にない何か」、おそらく日本に残っている「聖なるもの」を無意識に探しに来ているのではないかと思うんです。

なぜならなら、いま自由とか人権とか個人主義とか、西洋で500年発展してきたイデオロギーが完全に行き詰ってしまっているからです。

例えば「我思う、故に我あり」で有名なデカルトの哲学のように、西洋では自我（私）が宇宙の中心にあり、自我からすべてが始まりますが、それではお互いに自分を主張して争いが絶えないわけです。

しかし、日本に来るとそれが全く逆なんです。

日本人はごく自然に周りの人や状況を慮（おもんばか）った上で、自分の行動を決めています。

つまり、自我がまずあるのではなく、周囲との関係性の中から自我がつくられていくような感覚です。

西洋的な生き方が行き詰ってしまった。

じゃあどうするのか？

「日本の伝統文化に西洋とは違う価値観、
生き方があるのではないか。」

その思いが意識的にせよ、無意識にせよ、日本を訪れる西洋人の中にあることを強く感じているんです。・・・

多くの外国人が日本の『武道』を学びにやってきます。

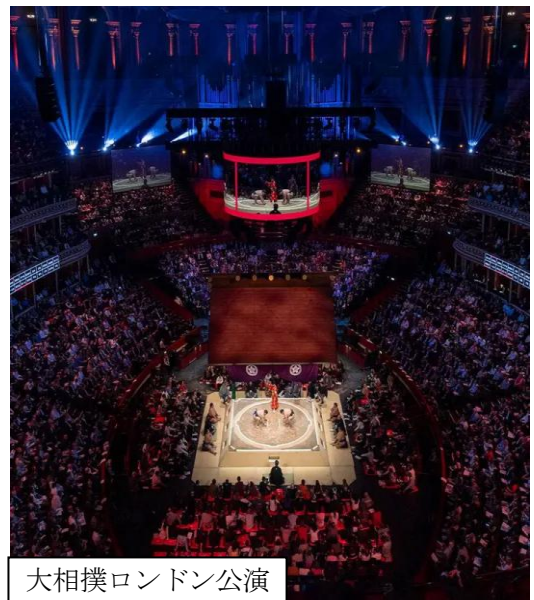
世界には様々な格闘技がありますから、技術にだけ関心があるのならわざわざ日本の武道を学ぶ必要はありません。

では、なぜあえて日本武道を学びに来るのかというと・・・

要は、日本の武道にある精神性を探究したいんです。

体の鍛錬と精神の成長が一体になっているのが

日本武道であり、日本文化と言えます。



大相撲ロンドン公演

【致知】7月号 特集「日本復活の道」より

また、ジェイソン・モーガンさんは、日本でホームステイをされた経験もふまえ、『多文化共生』や『グローバルスタンダード』の危険性についても述べられています。また紹介しますね。

写真は、大盛況だった、イギリス ロンドンのロイヤル・アルバート・ホールでおこなわれた大相撲ロンドン公演の様子です。